

凡例

- 1 遺構実測図は基本的に航空写真測量により、一部航空写真測量をおこなっていない箇所を手測り図のトレースにより補完した。
- 2 縮尺1：200の遺構実測図（図版3～22）には別に通し番号を付し、割付図と縮尺1：300の垂直写真を対向で示した。垂直写真は各調査時に撮影したものを合成して作成した。
- 3 遺構実測図に示した座標値は日本測地系（平面直角座標系第VI系）による。世界測地系への変換は、平城宮跡内に設置した基準点の改測によって得られた座標変位量の平均値（ $X=+346.4\text{m}$ 、 $Y=-261.3\text{m}$ ）を日本測地系の座標値に加えることで可能である。
- 4 遺構には一連の番号をつけ、その前に分類番号（SA：築地・塀、SB：建物、SC：廊、SD：溝、SE：井戸、SF：道路、SK：土坑、SS：足場穴、SX：その他）を付記した。